

分析美学の諸問題

Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

第7章 美的と倫理的

美的対象、美的価値、美的性質、美的経験、美的態度、美的評価、美的情報……

第2章「芸術の定義」での分類をそのまま借用できる

- ・美的と非美的の「線引き問題」
- ・自然種か名目種か ・進化的アプローチか文化的アプローチか
- ・一元論と多元論
- ・普遍主義と相対主義
- ・「美的」の定義の分類軸

〔本質主義、選言主義、規約主義〕

〔内在主義、外在主義(関係主義)〕

〔形式主義、現象主義、機能主義、制度主義、歴史主義〕

〔(定義に価値を持ち込むかどうかで)規範的定義と記述的定義〕 折衷主義

機能主義を内在主義と見るか外在主義と見るかは、「機能」の内容を必然的(内在的)と見るか偶然的(関係的)と見るかによる

機能主義は機能の優劣を価値判断につなげる限りでは規範的定義であり、制度主義は制度の定義に規範を持ち込まない限りでは記述的定義である

「価値中立的な美」「反価値的な美」はありうるか

美的価値、芸術的価値、倫理的価値の独立性、相互依存性

美的性質の、非美的性質からのSupervenienceとEmergence

「非美的性質に条件付けられることなく依存する高次の性質」としての美的性質

Frank Sibley “Aesthetic Concepts” 1959 (Approach to Aesthetics Oxford U.P. 2001)

芸術への美的態度以外？の態度（無関心でない態度・道具的態度）

- ・用具的関心（本を枕として、彫刻を金槌として）
- ・物理的関心（成分分析など）
- ・経済的関心（売却、投資、宣伝の対象として）
- ・政治的関心（プロパガンダの道具として）
- ・医療的関心（芸術療法 of 道具として）
- ・教養的関心（俗物的満足、試験対策）
- ・交際的関心（話題の誇示、趣味の誇示、プレゼント）
- ・装飾的関心（インテリア、カタログ、コレクション）
- ・娯乐的関心（積極的娯楽、逃避的娯楽）
- ・生理的関心（快、不快、陶酔、忌避）
- ・宗教的関心（崇拝の対象、神秘の源泉として）
- ・歴史的関心（由来、履歴の詮索）
- ・文化的関心（作家研究、地域研究の素材として）
- ・資料的関心（用例研究など）
- ・学術的関心（作品研究）
- ・業績的関心（論文作成、鑑定の対象）
- ・理論的関心（文化理論の例証のため）
- ・実証的関心（心理学・生理学的実験の素材として）
- ・倫理的関心（教訓のため）
- ・教育的関心（啓蒙活動、教科書として）
- ・技法的関心（創作の手本、芸術理解の例、人間的可能性の理解への手がかりとして）
- ・創作的関心（同ジャンルの創作の素材として 模倣、対象化）
- ・創作的関心（批評、他ジャンルの芸術創作の素材として）
- 美的関心？（美的経験の源泉として（因果的、意味論的））

絵画に贋作があるのに音楽に贋作がないのはなぜか？

- ① 絵画には贋作がありうる
- ② 音楽には贋作はありえない
- ③ 真作と贋作には本質的な価値の違いがある
- ∴ ④ 芸術は多層的である(ジャンルの違いは芸術における本質の違いである)

- ①→ 創造的贋作(ex. Han van Meegeren)の場合は両ジャンルとも事情は同じである
絵画の**完全な複製**は贋作ではない 両ジャンルの技術的・感性的な相違を示すにすぎない
- ②→ スコアの完全な盗作は贋作である 演奏の完全な模倣は贋作である
- ③→ 芸術的同一性・芸術的価値にとって真贋は本質的でない(真贋は歴史的意義を示すのみ)
- ④→ スコアとパフォーマンス テキストと作品と提示 の区別によって多層性は自明化するが、ジャンルの本質性は導かれぬ 区別はむしろ**複数性を前提とするか否か**の規約の問題？(複数芸術でありながら真贋の区別のある 版画 をどう考えるか？)

贋作、盗作、海賊版はそれぞれどう違うか？

◎ 独創性と誠実性についての類題：スポーツにおける助言とドーピングについて

- ・柔道では試合中に周りからの助言が許されるのに、将棋では対局中の助言が反則になる
- ・柔道ではドーピングが禁止なのに、将棋ではドーピングがOKである

なぜか？ 芸術創作の場合はどうか？ ジャンルによる相違はあるか？

(cf. チェスと将棋におけるドーピング、カンニングの相違)

起源と結果の比重……意図における不誠実が損なうのは、芸術的価値か、美的価値か

非独創性(助言・模倣)と不誠実性(ドーピング・虚偽)の論理

助言……論理的サポート
ドーピング……因果的サポート

設計図的
レシピ的

表現型との体系的対応のメカニズム明快
表現型との体系的対応のメカニズム不明

「助言・模倣」の論理・倫理

デジタル・反復可能(→**模倣厳禁**)
記法(何がなされたか)で定義
ex. デザイン、作曲
ex. 将棋

アナログ・反復不可能(→**模倣許容**)
起源(誰がなしたか)に依存
ex. 描法、演奏
ex. 柔道

助言・複写・模倣による同一達成は容易
値が付くのは達成結果で定義される**構造**
異起源の「贋作」も同じ価格(模倣が通用)
起源が明確であっても独創性が問われる

助言・複写・模倣による同一達成は困難
値が付くのは創造経緯で定義される**一品**
異起源の「贋作」は価格が異なる(模倣は別枠)
起源が明確でありさえすれば独創性は問われない

「ドーピング」の論理・倫理

「特定主体による達成」の価値観(→**D厳禁**)
ex. スポーツ～柔道、チェス、(将棋)
特定主体が変容すると結果の価値に関わる
予在する目標が達成を決める
達成結果そのものに内在的価値はない
フェアプレイの設定基準がある

「特定結果の生産」の機能主義(→**D許容**)
ex. 芸術～描法、演奏、デザイン、作曲
変容させうる特定主体に本質的価値はない
達成を決めるような目標は予在しない
達成結果そのものに内在的価値がある
フェアプレイの設定基準がない

.....
独創性と誠実性……新しさと倫理

人格・感情の表出……トルストイ、コリングウッド

絵画に贋作があって音楽にないのは本当か？

Jerrold Levinson *Music, Art, & Metaphysics* Cornell U.P. 1990

① 19世紀中頃に作曲された作品Aと、20世紀後半に独立に作曲された作品Bとは、たまたま同じメロディMを持っている

② K氏はメロディの由来を意識せずに、覚えていたメロディMをピアノで弾いた

③ 演奏がどの音楽作品の演奏であるかは、メロディ(記法との対応)によって定義される

∴④ K氏が弾いたのは作品AかBかいずれかだが、決定できない

①→ この前提はあまりに特殊な仮定である ←メロディの部分的類似は実例が多い

②→ 意識していなくても、いずれかの因果線の方により強く結びついているはずである

③→ 「弾き間違いのパラドクスwrong-note paradox」等により、記法によって定義されるという前提には疑問がある(特殊な例として、「管理された偶然性の音楽」など)

メロディ(記法との対応)で定義できない場合も、履歴によって定義できる → 作品の同一性基準としては、メロディ(記法との対応)よりも、履歴を優先すべきである

④→ 決定できなくともかまわない: 芸術作品は提示を共有しうる(同一の提示が複数の作品に対応しうる: 作品と提示の多対多対応)

音楽作品の同一性基準と美術作品の同一性基準の同一化? → 「音楽の贋作」が可能に
(本当は作品Aなのに、作品Bと宣伝して提示するという「詐欺」が意味を持つことになる)

「作者の身元」は、芸術作品の本質的性質か、偶然的性質か

文献

Frank Sibley *Approach to Aesthetics* (Oxford U.P. 2001)

Jerrold Levinson *Music, Art, & Metaphysics* (Cornell U.P. 1990)

Jerrold Levinson ed. *Aesthetics and Ethics: Essays at the Intersection* (Cambridge U. P. 1998)

Nelson Goodman *Languages of Art* (Bobbs-Merrill, 1968. 2nd ed. Hackett, 1976)

レフ・トルストイ『芸術とは何か』(1898)角川文庫

ロビン・ジョージ・コリングウッド『芸術の原理』(1938)勁草書房

リチャード・ドーキンス『延長された表現型』(1982)紀伊國屋書店

贋作事件に関する手頃な文献

岡部昌幸『迷宮の美術史 名画贋作』青春出版社

大島一洋『芸術とスキャンダルの間 戦後美術事件史』講談社現代新書

トマス・ホーヴィング『にせもの美術史』朝日文庫

トマス・ホーヴィング『ミイラにダンスを踊らせて』白水社

ゼップ・シェラー『フェイクビジネス 贋作者・商人・専門家』小学館文庫

フランク・ウイン『私はフェルメール 20世紀最大の贋作事件』ランダムハウス講談社

クリフォード・アーヴィング『贋作』早川書房

リアル・ルサール『贋作への情熱 ルグロ事件の真相』中央公論社

トム・キーティング『贋作者』新潮社

オーソン・ウェルズ『フェイク』(DVD)